



鞆の浦しおまち海道サイクリングロード 利用促進に向けた3か年計画(案)

目次

I. 本計画策定の目的	P1
II. 利用者数の将来目標	P2
III. 2035年度(令和17年度)までのロードマップ	P3
IV. 利用促進に向けた3か年の取組	
0. 取組の全体像	P4
1. ルート設定	P5
2. 走行環境	P6
3. 受入環境	P10
4. 情報発信	P13
5. 取組体制	P18

I. 本計画策定の目的

- 2018年度(平成30年度)に瀬戸内海の多島美を望め、国内外から観光客が訪れる鞆の浦や阿伏兎観音など観光資源を活用したルートとして「鞆の浦しおまち海道サイクリングロード(以下、「しおまち海道」という。)」を設定した。
- 以降しおまち海道の環境整備や情報発信に継続的に取り組んでいるところであるが、サイクルツーリズムの振興に向けて、さらなる認知の獲得や魅力の向上等を通じた利用促進が必要な状況となっている。
- 本計画は、しおまち海道の利用促進に向けた環境整備や機運醸成のため、2026年度(令和8年度)から2028年度(令和10年度)までの3か年の取組を示すものである。

総距離 (サブルート込)	約111km
メインルート 距離	約40km (起点:福山駅~終点:尾道市境(境ガ浜))



<凡例>
— : しおまち海道メインルート
— : しおまち海道サブルート

Ⅱ. 利用者数の将来目標

しおまち海道の現在の利用者数
2025年度(令和7年度)：約1.3万人

※2025年(令和7年)の平日・休日の3日間における轄地域(本瓦造船(株)本社前近くの三叉路)での定点観測によるしおまち海道の利用者数から、季節性(サイクリストの月別の意向に関する民間調査)及び年間の平日・土日の日数を踏まえて、年間の利用者数を推計。

しおまち海道の**将来**の利用者数
2035年度(令和17年度)：**約10万人**

※ナショナルサイクルルート(以下、NCR)に指定されている6路線のうち利用者数が公表されている3路線の利用者数は、つくば霞ヶ浦りんりんロード(延長:176km)が12.5万人、ビワイチ(延長193km)が12.8万人、しまなみ海道サイクリングロード(延長70km)が33万人である。

※尾道市・今治市の観光客数に占めるしまなみ海道の利用者数は約3%である。福山市の2030年度(令和12年度)における観光客数の目標値(750万人)の3%は約23万人となることから、しおまち海道は十分なポテンシャルを有している。

Ⅲ. 2035年度(令和17年度)までのロードマップ

	2025年度 (令和7年度)	2026～2028年度 (令和8～10年度)	2029～2031年度 (令和11～13年度)	2032～2034年度 (令和14～16年度)	2035年度 (令和17年度)
利用者数	1.3万人	2.5万人	5万人		<u>10万人</u>
ルート設定	見直し		必要に応じて見直し		
走行環境	NCR基準への 対応状況 <u>メインルート約44%</u> <u>サブルート約1%</u>	<u>メインルートの100%</u> でNCR基準に対応 (自転車通行空間、注意喚起 の案内表示、ルート案内)	<u>サブルート</u> でNCR基準に対応 (自転車通行空間、注意喚起の 案内表示、ルート案内)	<u>サブルート</u> でNCR基準に対応 (自転車通行空間、注意喚起の 案内表示、ルート案内)	全ルートでNCR 基準に対応
受入環境	NCR基準に一部 未対応(物品の購 入環境の整備等)	<u>ゲートウェイ機能</u> の拡充 (福山駅周辺) <u>レンタサイクル</u> の拡充	<u>ゲートウェイ機能</u> の拡充 (道の駅アリストめまぐま) <u>宿泊施設</u> の拡充 <u>自転車運搬環境</u> の拡充	<u>サブルート沿線</u> でも 受入環境を整備・拡充	全ルートでNCR 基準に対応
情報発信	NCR基準に一部 未対応(HPIにおけ る情報の一元化)	<u>認知獲得</u> に向けた 取組を重点的に実施 (HPIリニューアルイベント拡充 インフルエンサーとの連携等)	<u>利用拡大</u> に向けた 取組を重点的に実施 (イベント拡充、モデルルー ト拡充等)	<u>リピーター拡大</u> に向け た取組を重点的に 実施	NCR基準に 対応
取組体制	振興協議会	継続的な取組のフォローアップ、必要に応じて体制拡充			

※ 今後の利用者数や利用者ニーズなどを踏まえ、道路管理者等関係者と協議しながら、必要性や整備効果、予算の状況等を勘案し、優先順位をつけて段階的に整備を進める。

IV. 利用促進に向けた3か年の取組 0. 取組の全体像

1. ルート設定

2. 走行環境

(1) 自転車通行空間

(2) 注意喚起の案内表示(トンネル・急勾配)

(3) ルート案内(路面表示・案内看板)

3. 受入環境

(1) ゲートウェイ

(2) レンタサイクル

4. 情報発信

(1) イベント

(2) HPによる情報発信

(3) SNSによる情報発信

(4) インフルエンサーとの連携による情報発信

5. 取組体制

1. ルート設定 現状と課題、取組

現状と課題

		現状	(参考)NCR基準	NCR基準対応状況
メインルート		<ul style="list-style-type: none"> 2018年度(平成30年度)に約27kmを設定。2025年度(令和7年度)に、スカイライン及びグリーンライン、道の駅「アリストぬまくま」を経由するルートを追加し、約40kmを設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ルートの延長が概ね100km以上であること。(ただし、離島・島しょ部は除く。) ✓以下のいずれかを満たすルートであること。 <ul style="list-style-type: none"> - 地域を代表する観光地(歴史・文化・景勝地)を有機的に連携していること。 - 国際的に著名な観光地を有機的に連携していること。 - 魅力的な景観の地域を通過していること。 - 複数の地形条件を通過して地形の変化を楽しむことができるルートとなっていること。 ✓自動車交通量が概ね10,000台/日以上以上の幹線道路において車道混在となる区間を避けたルートであること。 ✓狭小幅員のトンネルを含まないルートとすること。 ✓自転車で通行できない区間がないこと。 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自転車交通量が概ね10,000台以上の幹線道路において車道混在となる区間が存在しており、走行環境の整備が必要。 <p>対応済・拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ルートの総延長は100km以上を確保しているが、全体の一貫したコンセプトを確保するためのサブルートの再検討や他市町との連携の拡充を図る。
サブルート	大門サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度(令和3年度)に約9kmを設定。 しおまち海道と笠岡市の「笠岡湾干拓ルート」を結ぶ。 		
	神辺サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度(令和3年度)に約17kmを設定。 しおまち海道と井原市の「まるごと！井原満喫ルート」を結ぶ。 		
	内海サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度(令和4年度)に約16kmを設定。 瀬戸内海の港町の風情が特徴的な内海地区は交通量も少なく初心者におすすめ。 		
	松永・動物園サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度(令和4年度)に約29kmを設定。 サイクリングイベント「ふく福Ride」のコースをベースにしたハードな山越えを行う上級者向けルート。 		

取組

目的
サイクルツーリズムの推進に資する魅力的かつ安全なルートとするため、必要な走行環境の整備を行うとともに、サブルートの再検討や他市町との連携の拡充を図る。

- 今後の取組 [取組主体]**
- ① メインルートの走行環境の整備を段階的に進める。[県・市]
 - ② 振興協議会等の意見や関係自治体との調整を踏まえ、サブルートの再検討や他市町との連携拡充を行う。[市]

ロードマップ



取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
①	メインルートの走行環境整備		
②	サブルートの再検討、他市町との連携拡充		

2. 走行環境 現状と課題

現状と課題

		現状	(参考)NCR基準	NCR基準対応状況	
自転車通行空間	都市部(DID地区)	<ul style="list-style-type: none"> メインルートの該当延長約6.7kmのうち約4.4km整備済。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 適切に歩行者・自動車と分離された自転車通行空間が整備されていること。(ガイドラインに基づく暫定形態を含む) 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 約2.3kmの整備が必要。 	
	郊外部(DID地区以外)	自動車交通量が概ね10,000台/日以上	<ul style="list-style-type: none"> メインルートの該当延長約11.4km全て未整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 100m程度の間隔で矢羽根を設置 かつ 外側線の外側に1.5m以上(やむを得ない場合は1.0m以上)の幅員を確保すること。 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 約11.4kmの整備が必要。
		自動車交通量が概ね10,000台/日以下	<ul style="list-style-type: none"> メインルートの該当延長約21.5kmのうち約0.6km整備済。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 100m程度の間隔で矢羽根を設置 または 外側線の外側に1.5m以上(やむを得ない場合は1.0m以上)の幅員を確保すること。 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 約20.9kmの整備が必要。
注意喚起の案内表示	トンネル	<ul style="list-style-type: none"> メインルートにおいて全て未整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現地に注意喚起の看板等の案内表示がされていること。 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 対象箇所において注意喚起の看板等の設置が必要(具体の箇所数は今後要精査)。 	
	急勾配	<ul style="list-style-type: none"> メインルートにおいて5箇所整備済。 			
ルート案内	路面表示	<ul style="list-style-type: none"> メインルートの単路部は概ね1kmごとに整備済、分岐部は56箇所整備済。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 単路部:概ね5kmごと ✓ 分岐部:必要箇所全箇所 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 対象箇所50~70箇所において整備が必要。 	
	案内看板	<ul style="list-style-type: none"> メインルートの単路部は未整備、分岐部は10箇所整備済。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 単路部:概ね5kmごと ✓ 分岐部:必要箇所全箇所 		

2. 走行環境 取組 (1) 自転車通行空間

取組

目的

適切に歩行者・自動車と分離された自転車通行空間を整備することで誰もが安全・快適に走行できる環境を整備する。

今後の取組 [取組主体]

ルートを下①～③に分類し、それぞれ「ナショナルサイクルルート制度」(国土交通省 自転車活用推進本部)を基準に整備を行う。
[県・市]

	分類	整備基準
①	都市部(DID地区)	矢羽根型路面表示10m間隔
②	郊外部(非DID地区)かつ自動車交通量が概ね10,000台/日以上	矢羽根型路面表示100m間隔かつ路肩1.5m
③	郊外部(非DID地区)かつ自動車交通量が概ね10,000台/日以下	矢羽根型路面表示100m間隔または路肩1.5m

※ 今後の利用者数や利用者ニーズなどを踏まえ、道路管理者等と協議しながら、必要性や整備効果、予算の状況等を勘案し、優先順位をつけて段階的に整備を進める。

ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
整備率 2025年度(令和7年度) 約48%	約60%	約80%	約100%



2. 走行環境 取組 (2)注意喚起の案内表示(トンネル・急勾配)

取組

目的

トンネル部では幅員が狭小かつ視認性が低下し、また、長い下り坂では速度超過、長い上り坂では蛇行運転となる危険性があるため、注意喚起の案内表示を設置することで誰もが安全・快適に走行できる環境を整備する。

今後の取組 [取組主体]

以下①②について、それぞれ「ナショナルサイクルルート制度」(国土交通省 自転車活用推進本部)を基準に整備を行う。[県・市]

- ① トンネルの出入口に注意喚起看板を設置する。
- ② 急勾配区間に注意喚起看板及び路面表示を設置する。

※ 今後の利用者数や利用者ニーズなどを踏まえ、道路管理者等と協議しながら、必要性や整備効果、予算の状況等を勘案し、優先順位をつけて段階的に整備を進める。

<整備イメージ>

トンネル内の走行に対する注意喚起



看板

急勾配区間に対する注意喚起



路面表示



看板



ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
整備率 2025年度(令和7年度) 約16%	約40%	約70%	約100%

2. 走行環境 取組 (3)ルート案内(路面表示・案内看板)

取組

目的
路面表示・案内看板を整備することで誰もが迷わず安心して走行できる環境を整備する。

今後の取組 [取組主体]
交差点部への方向表示(①)、距離標(②)、単路部や分岐部への案内看板(③④)の設置について、それぞれ「ナショナルサイクルルート制度」(国土交通省 自転車活用推進本部)を基準に整備を行う。[県・市]

※ 今後の利用者数や利用者ニーズなどを踏まえ、道路管理者等と協議しながら、必要性や整備効果、予算の状況等を勘案し、優先順位をつけて段階的に整備を進める。

<整備イメージ>

①方向表示



②距離標



③単路部看板



④分岐点看板



ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
整備率 2025年度(令和7年度) 約38%	約60%	約80%	約100%

3. 受入環境 現状と課題

現状と課題

	現状	(参考)NCR基準	NCR基準対応状況
ゲートウェイ	<ul style="list-style-type: none"> 福山駅とiti SETOUCHIをゲートウェイに設定 レンタサイクルが利用できる(福山駅南有料自転車駐車場、iti SETOUCHI等) 必要な情報が入手できる(福山駅観光案内所、iti SETOUCHIにルートマップを設置) ロッカー、着替えスペース、空気入れ、工具がある(福山市駅南地下送迎場内の福山市自転車組立場内に整備済) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ レンタサイクルが利用できること。 ✓ 必要な情報が入手できること。 ✓ 必要な物品(タイヤチューブや携行食品等)が購入できること。 ✓ ロッカー、着替えスペース、空気入れ、工具が利用できること。 ✓ ゲートウェイとルート間のアクセスルートが整備されており、そのアクセス方法もわかりやすく案内されていること。 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 必要な物品(タイヤチューブや携行食品等)が購入できる環境の整備が必要。 ➢ ゲートウェイとルート間のアクセスルートの整備が必要。
レンタサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・市営:35台(軽快車) ・民営:iti SETOUCHI 5台(E-bike)、その他事業者計 約20台(E-bike、スポーツサイクル) 	-	<p>対応済・拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 乗り捨てサービスや南部地域での導入を検討。
サイクルステーション	<ul style="list-style-type: none"> ・対象店舗:13店舗(「ひろしまサイクルおもてなしスポット」及び「Setouchi Véloスポット」の合計) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 20kmごとに以下の機能を満たしたサイクルステーションがあること。 <ul style="list-style-type: none"> - トイレや空気入れの利用ができること。 - 水分補給ができること。 - 休憩スペース・設備(屋根付きのテーブル・椅子)があること。 - サイクルラックが設置されていること。 - 必要な情報(ルートマップ、休憩施設等)が入手できること。 	<p>対応済</p>
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車館内で保管できる宿泊施設:4施設 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 60kmごとに以下の機能を満たした宿泊施設があること。 <ul style="list-style-type: none"> - 室内(フロントロビー客室)で自転車の保管ができること。 - フロント等にて荷物の保管ができること。 - 洗濯ができること。 	<p>対応済</p>
緊急時のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車専用道路である区間に緊急車両の進入が可能な環境が整備されている ・緊急時の連絡体制やサポート可能な施設情報がHPに記載されている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 緊急時の事故対応等のため、自転車専用道路等に緊急車両の進入が可能な環境が整備されていること。 ✓ 緊急時の連絡体制やサポート可能な施設情報がルートマップ及びHPなどに記載されており、サイクリストが困らない情報提供がなされていること。 	<p>対応済</p>

3. 受入環境 取組 (1)ゲートウェイ

取組

目的

しおまち海道のゲートウェイである福山駅及びiti SETOUCHIの機能を強化することで、サイクリングの出発点となるゲートウェイにおいて、サイクリストの快適で安心な利用をサポートする。
また、iti SETOUCHIとしおまち海道の間のアクセスルートを整備することで、ゲートウェイとルート間のアクセスを分かりやすくする。

今後の取組 [取組主体]

- ① 必要な物品(タイヤチューブや携行食品等)が購入できる環境を整備する。[iti SETOUCHI]
- ② iti SETOUCHIとしおまち海道の間のアクセスルートに路面表示等を整備する。[市]



iti SETOUCHI内 GRUPPETTO CLUB



福山市自転車組立場

ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
①	必要な物品の販売準備・販売開始	必要な物品の販売・ニーズを踏まえ物品ラインナップを拡充・取り寄せサービスの実施	
②	路面表示等の整備	ニーズに応じて路面表示等の追加整備	

3. 受入環境 取組 (2) レンタサイクル

取組

目的

自転車を持たない方でも、しおまち海道を楽しむことができる環境を整備するため、福山駅以外でのレンタサイクルの乗り捨てサービスや南部地域でのレンタサイクルの実施について検討する。

今後の取組 [取組主体]

- ① レンタサイクルの乗り捨てサービスを検討するため、事業者のヒアリングやマッチング等を行う。[市]
- ② 南部地域での導入検討のため、道の駅アリストぬまくまにおいてレンタサイクルの実証実験を実施する。[市・アリストぬまくま]

<福山駅周辺のレンタサイクル>



	店舗	台数	料金
ア	GRUPPETTO CLUB	5台	1,100円/3時間 5,500円/1泊2日
イ	福山観光旅行(株)	11台	5,000円/日 3,000円/4時間
ウ	サイクルハート・ ふくやまショーケース	6台	800円~2,000円

ロードマップ



4. 情報発信 現状と課題

現状と課題

		現状	(参考)NCR基準 ※斜字は推奨条件	NCR基準対応状況
イベント		<ul style="list-style-type: none"> しおまち海道を活用したイベントとして「ふく福Ride(参加約70人)」、「せとうちRideサイクルラリー(参加約200人)」、「かわまちトライアスロン(参加約300人)」等の他、市(福山観光コンベンション協会)主催イベント(参加約30人)を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サイクリストに向けに地域の魅力を紹介するツアーガイドなどが実施されていること(日英2か国語以上の対応)。 ✓ ルートを活用した幅広い層を対象としたイベントが定期的開催されていること。 	<p>対応済・拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新たな参加者の誘致およびリピーターの獲得につながるイベントの開催が必要。
情報発信	HP	<ul style="list-style-type: none"> 福山観光コンベンション協会HP内にしおまち海道公式HPを作成。 -日英の2か国語対応 -ルートの紹介と経路(距離等)を掲載 -年間アクセス数4,323人 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ HP、SNS及びパンフレットなどで以下の情報を多言語化対応(日英2か国語以上)して発信していること。 -ルートの紹介(距離、勾配、利用者別推奨コース等) -地域の魅力、立寄スポット、周辺の観光スポット -ゲートウェイやサイクルステーションの場所と機能 -レンタサイクル、宿泊施設 	<p>未対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 必要な情報が容易に閲覧できるHPへのリニューアルが必要。
	SNS	<ul style="list-style-type: none"> しおまち海道公式アカウントをFacebook及びInstagramにて運営。PR動画やイベント情報等を掲載。 -Facebookフォロワー:約90人 -Instagram:約800人 		<p>対応済・拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ しおまち海道に興味を持ってもらうためのPR動画や観光スポット情報などの定期的な更新が必要。 ➢ SNS投稿企画等を行うことによる認知度の向上が必要。
	インフルエンサー	-		-

4. 情報発信 取組 (1) イベント

取組

■目的

毎年度異なるターゲットを対象としたサイクルイベントを開催し、幅広い層への認知拡大や新規参加者の誘致、リピーター獲得を図る。また、民間事業者が主催するイベントとの連携により、事業者の参画意欲向上や地域全体の機運の醸成を図る。

■今後の取組 [取組主体]

- ① 異なるターゲットを対象としたサイクルイベントを開催する。[福山観光コンベンション協会]

ターゲット		サイクルイベント
ライトユーザー	日常の移動手段層、旅行・レジャー移動手段層、健康エクササイズ層	◆ E-BIKEやロードバイクを体験するイベント ◆ ポタリング等の気軽に楽しめるイベント
コアユーザー	ツーリング層、サイクリングイベント層、レース層	◆ 走りごたえのあるコースを活用したイベント ◆ 船やJRを活用したイベント

- ② 民間事業者主催のサイクルイベントに対する支援を行う。[市・福山観光コンベンション協会]

- ◆ しおまち海道の公式ホームページ等を通じた情報発信
- ◆ サイクルイベントに対する支援策の検討

■ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
①	ライトユーザー向けイベント	ライトユーザー向けイベント、コアユーザー向けイベント	
②	公式HPを通じた情報発信・サイクルイベントに対する支援策の検討		

<2025年度(令和7年度)実施しおまち海道ポタリングツアー>

ポタリングとは、自転車と気軽に街や自然を堪能しながら、速さを求めずに景色や寄り道を楽しむサイクリングのスタイルです。

福山駅から焼が浜(福山市内)までを結ぶサイクリングロード「しおまち海道」にて、魅力を気軽に体験できる初心者向けポタリングイベントを開催！スタートは西町のHi SETOUCHI。目的地は田尻町の「あんず広場」で、往復約20kmのコースです。芦田川沿いの初冬の澄んだ空気を感じながら、自転車で爽快に走り抜けてみませんか？

2025年 11月29日(土)
10:00~13:00 (雨天の場合12月6日(土))

参加費 無料 ※レンタルサイクルもご利用の場合は、別途レンタル料がかかります。

定員 先着30名 ※最少15名以上の方が参加いたします。

申込方法 右記二次元コードから専用申込フォームにてお申し込みください。

申込締切 11月23日(日)まで ※定員に達した際、受付を締め切らせていただきます。

集合場所 Hi SETOUCHI内 Cage 福山市西町1丁目1-1 エアビコ R1M1棟

服装 動きやすい格好 ※レンタルをご利用の方は、e-BIKE・自転車ヘルメットは必ず着用してください。(貸出はございません) ※e-BIKEの充電には約1時間かかります。

田尻町のあんずの歴史 田尻町のあんずの歴史は、340年以上の1881年に内閣府よりあんずの産地として認定されたことからはじまります。品質向上を目指して生産者団体「あんず生産者協議会」が設立され、現在「あんずの産地」の認定を受けています。

【問い合わせ先】公益社団法人 福山観光コンベンション協会 〒720-0067 広島県福山市西町二丁目10番1号 福山観光会館4F TEL 084-926-2649 FAX 084-926-0664 協力: 管仲しなまめNShare

4. 情報発信 取組 (2)HPによる情報発信

取組

目的

しおまち海道に関する情報を集約・一元化し、ルートや立寄スポット、サイクルイベントなどの情報をサイト内で簡単に閲覧できる構成に改善することで、利用者の利便性及び満足度を高める。

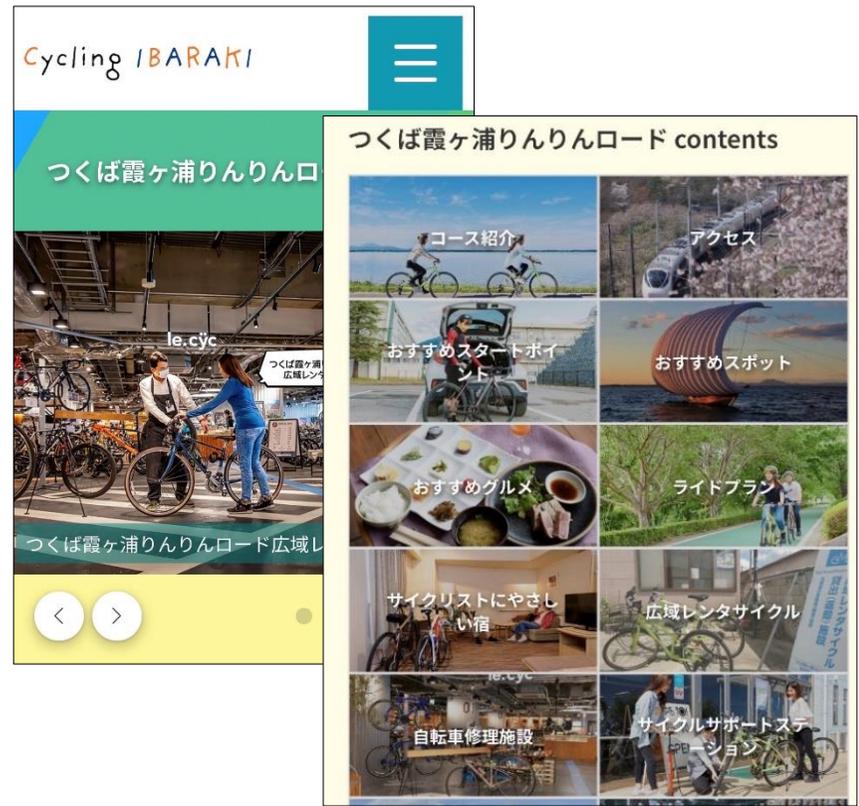
今後の取組 [取組主体]

- ① 以下の必要な情報が容易に閲覧できるホームページに更新する。
[福山観光コンベンション協会]
- ルートの紹介(写真や動画等)、立寄スポット、観光スポット等
- ルートの経路、距離、高低差、勾配等
- アクセス方法(公共交通アクセス等)
- ゲートウェイ、サイクルステーション(場所、機能)
- レンタサイクル(場所、自転車の特徴、台数、料金)
- 宿泊施設(場所、利用可能なサービス、料金)
- 代替交通手段(サイクルバスやフェリーの時刻表、料金など)
- モデルルート
- サイクルイベント

ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
①	HPリニューアル	追加情報を随時更新	

<Cycling IBARAKI HP>



4. 情報発信 取組 (3) SNSによる情報発信

取組

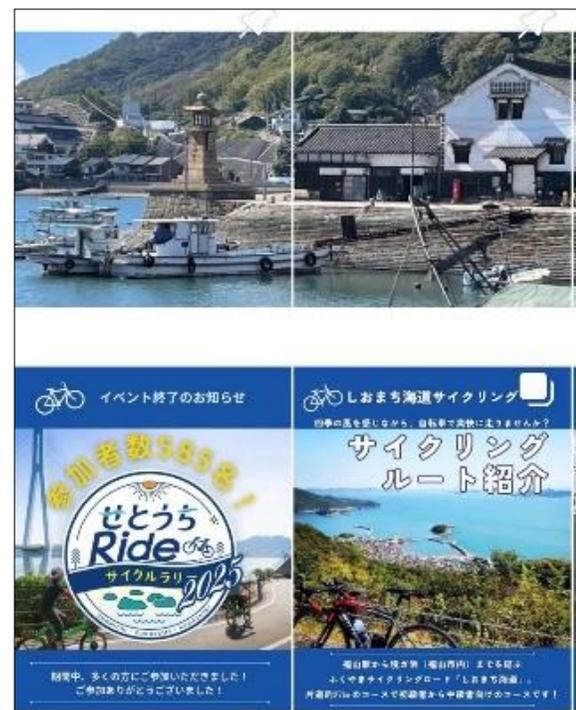
目的

継続的に情報発信することで認知度を高め、サイクリングや観光を目的に地域を訪れる来訪者を増やし、実際の利用促進及び地域への来訪・再訪につなげる。

今後の取組 [取組主体]

- ① リール動画等により、1～2週間に1回程度、継続的に投稿する。[福山観光コンベンション協会]
- ② 道の駅アリストぬまくま等の事業者と連携し、季節のテーマに沿ったSNS投稿企画を実施する。[市・福山観光コンベンション協会・アリストぬまくま]

<しおまち海道公式アカウントによるSNSでの情報発信>



ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)			2027年度(令和9年度)			2028年度(令和10年度)		
①	SNS更新(1～2週間ごと)								
②	企画	実施	評価	企画	実施	評価	企画	実施	評価

4. 情報発信 取組 (4)インフルエンサーとの連携による情報発信

取組

目的

インフルエンサーの発信力やネットワークを活用して、しおまち海道の認知度を向上させ、来訪意欲の増進や利用促進につなげる。

今後の取組 [取組主体]

- ① インフルエンサーによる情報発信を行う。[福山観光コンベンション協会]
 - ◆ 毎年、異なるインフルエンサーと提携し、幅広い層への認知拡大の推進。
 - ◆ インフルエンサーのイベント参加による体験型コンテンツのSNS発信。
 - ◆ 投稿内容や計画的なタイミングによる、イベントや季節に合わせた効果的な情報発信の実施。

<インフルエンサーとの連携のイメージ>
(2021年度(令和3年度) しおまち海道で実施したインフルエンサーとの連携イベント)



ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)	2027年度(令和9年度)	2028年度(令和10年度)
①	インフルエンサーによる情報発信	インフルエンサーによる情報発信	インフルエンサーによる情報発信

5. 取組体制 現状と課題、取組

現状と課題

	現状	(参考)NCR基準	NCR基準対応状況
取組体制	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度(令和6年度)に官民で構成する「鞆の浦しおまち海道サイクリングロード振興協議会」を設立し、その後継続開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 官民が連携し一体的に協議・検討・議論を行う常設の協議会、事務局が設置され、開催されていること。 ※ 協議会メンバーに国・都道府県・市区町村と道路管理者・観光部局、観光地域づくり法人(DMO)等、必要に応じて警察、鉄道会社・バス会社等が含まれた体制で設置されていること 	対応済

取組

【鞆の浦しおまち海道サイクリングロード振興協議会構成委員】

目的

協議会を定期的開催し、各年度に行う取組内容やその成果を共有するとともに、フォローアップを行う。

今後の取組 [取組主体]

- ① 年に1回程度、協議会を開催する。[鞆の浦しおまち海道サイクリングロード振興協議会]

区分	団体名等
自転車競技団体	eNShare
自転車産業	広島県自転車協同組合
サイクル拠点	iti SETOUCHI
	道の駅アリストぬまくま
経済団体	福山商工会議所
	沼隈内海商工会 (公社)福山観光コンベンション協会
観光事業者	福山ホテル旅館組合
	鞆の浦旅館組合 (一社)広島県旅行業協会
	(公社)広島県バス協会
交通事業者	広島県タクシー協会東部支部
	西日本旅客鉄道(株)広島支社
	(株)瀬戸内クルージング 備後商船(株)

区分	団体名等
国	国土交通省中国地方整備局福山河川国道事務所調査設計課
県	広島県土木建築局道路企画課
	広島県土木建築局道路整備課
	広島県商工労働局観光課
	広島県東部建設事務所維持第一課
	広島県東部建設事務所轄地区まちづくり推進事業所
市	福山市建設局建設管理部建設政策課
	福山市建設局都市部都市交通課
	福山市文化観光振興部観光戦略課
	福山市市民局市民部鞆支所 福山市市民局まちづくり推進部南部地域振興課

区分	団体名等
オブザーバー	国土交通省中国地方整備局道路部交通対策課 尾道市産業部観光課

ロードマップ

取組	2026年度(令和8年度)		2027年度(令和9年度)		2028年度(令和10年度)	
①	○ 取組状況 取組予定	○ 当該年度取組結果 次年度計画	○ 当該年度取組結果 次年度計画	○ 当該年度取組結果 次年度計画	○ 当該年度取組結果 次年度計画	○ 当該年度取組結果 次年度計画